

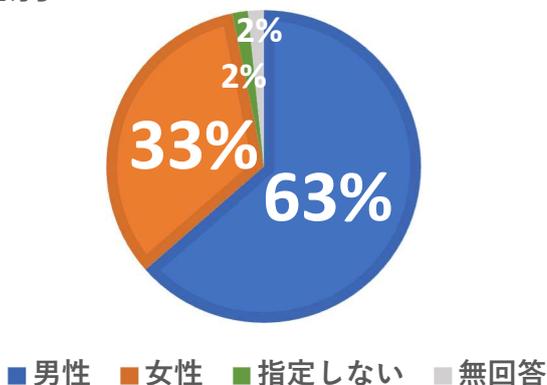
令和6年度 森林動物研究センターシンポジウム — 開催報告 —

1) 受付人数 408名 (兵庫県内 103名)

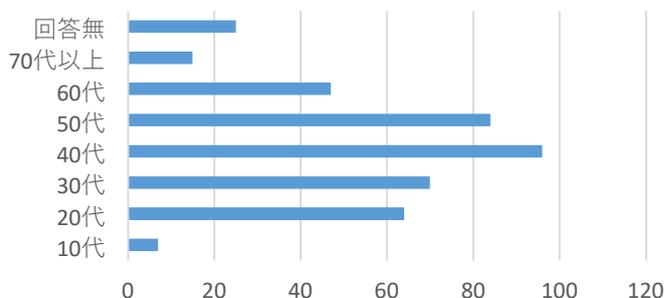
当日の最大視聴者は217人です。

2) 申込詳細

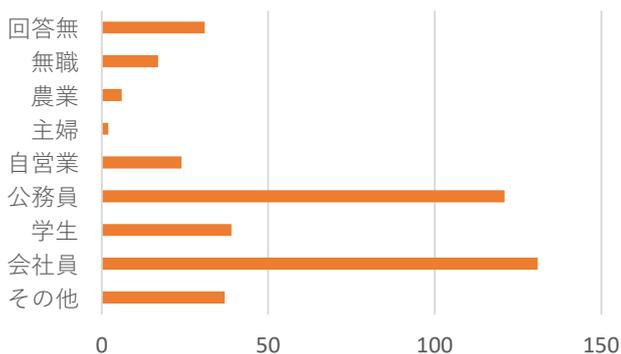
性別



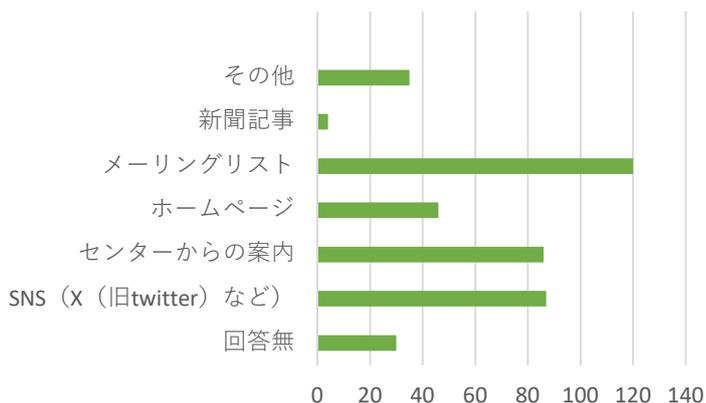
年齢構成



お仕事



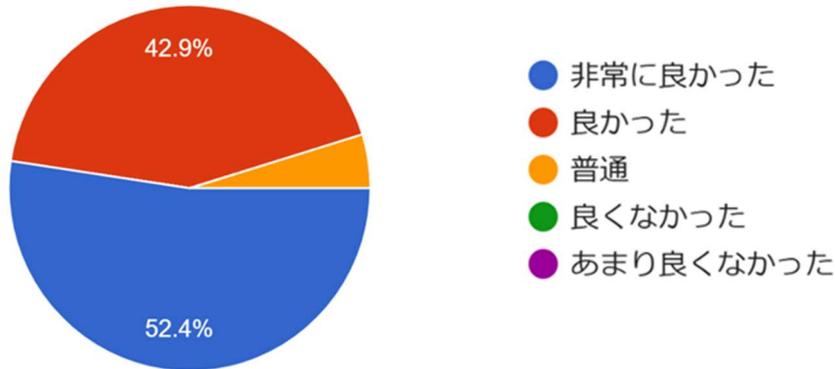
シンポジウムをどのように知りましたか



3) アンケートについて

42名の回答をいただきました。(兵庫県内 16名)

シンポジウムの全体評価



研究発表へのコメント (抜粋)

① 里山に棲むツキノワグマの食性が語ること

- 低標高域におけるクマの食性について、通常と異なる傾向が分かり理解が進んだ。タケノコの食痕について、竹林の中でよく見かけるが、サルやイノシシなども食べていることがあったと思いました。見分け方などあれば教えていただけたらと思いました。
- 里山のクマの餌資源としてアオハダなど液果の重要性が認識できた。既存の文献ではドングリ類が重要な秋の餌資源とありますが、以外とドングリ類がなくても、あるもの食べてクマはたくましいと感じた。クリとアベマキは結実変動が少ないというのも興味深かった。
- ツキノワグマは秋には堅果類を主食にしていると思っていましたが、液果類を主食としていることには驚きました。また、食物がなくなると食物を得るために分散移動し、いつもと違う物を食べ(クリや、シカ、人工飼料)、生きようとする。今後、クマも個体数管理が必要になってくるのでしょうか、いつどこで何を食べているかで管理方法が大きく変わってくると思っています。この研究でそれが明らかになっているので、非常に有益だと感じました。
- 地域性の違いはあると思いますが、堅果類だけでなくいろいろな食べ物に依存していて様々な理由で出没が増えている可能性があるということが分かりました。

② 県境で増えたシカの土壌への影響

- 近年の豪雨の頻発化とシカによる下層植生衰退の影響は、今後、ますます問題視されるのではないかと考えています。しかし、影響が大きすぎて有効な対策がなく、苦慮しています。
林業の振興において、シカの問題は、大きな障壁となっています。
- 自動撮影カメラによる生息状況調査の手法が確立しつつある様子が分かりました。調査の手間は大変そうだなというのが感想。森林の更新阻害が長期的に自然環境へどのような影響を及ぼすかは未知の部分もありますが、失われたものの回復に時間がかかるというのは重要な点かと思いました。
- 野生生物管理の問題が国土保全上の重要な課題であるということが伝わったと思います。今後、広域に展開する方法を確立していくのだろうと思うのですが、手法は全国的にも参考になると思おうので続報に期待します。
- 県境や市町村境といったボーダーラインはシカが高密度になりやすいのかなと思いました。自治体同士で連携を組んで対策しなければならないケースもあることがわかりました。

③ 人里で増えたアライグマから果物とカエルを守る

- アライグマ対策は全国的に急務であると感じた。北海道では車が通行するだけのような土地で家族群がいるのを確認したが、対策がまったくとられない地域があると、どんどん生息密度が高まり他地域への供給源になるはずなので、広域的な対策が必要だと思えた。
- 被害防除の方法のユーチューブ紹介は参考になると感じた。
民間団体との実践活動、すばらしいと思いました。
- カエルの産卵時期に食べにくるアライグマを狙って駆除するのは良い案です。もはやドブガイなどを守るためには金網が必要な状態であるとは。。農業分野のみならず、アライグマによる生態系への被害・影響防止策を急ぐ必要があることが良くわかりました。
- 「あらいぐまラスカル」ドンピシャの世代で(飼育したいと思ったことは一度もないですが)、それがこの様な状況になっていることをなんとも罪深いことと懸念をしています。

④ 人間社会との『軋轢』を緩和する管理と政策

- 成功事例からの展開をご説明され大変、参考になりました。最後の議論のなかで、失敗する事例は成功する事例の裏返し というコメントが心に刺さりました。
- 山端先生の集落の被害軽減についてはいつも興味深く拝見しています。一見野生動物への対応のように見えるが、継続的に実施するにはそこに暮らす人達へのアプローチが大切だと思うようになりました。
- 成功事例を増やし共有して、事業継続と、問題点の再確認、何を指すのかをはっきりさせる協議が必要ですが、全ての地域でそれができるような仕組みが欲しいですね。
- 質疑応答の中で出ていた山村の集落維持機能の脆弱性とも絡めた獣害対策の行方をもっと聞きたい。先生のおっしゃった「守りたい農地を守ればよい」が着地点か？

4) シンポジウムで今後取り上げて欲しいテーマ

- 昔、当シンポジウムの発表で、クマのバイオロギングで実際にアオハダを食べている発表をみてとても興味深かった。最近、木の実のなり具合の変動とか昔と違うようで、クマの食性や行動圏とかシカの食性や行動圏とか、変わっていているように感じる。現在の野生動物の生態的な調査結果をみてみたい。温故知新ではないですが、基本的な今の野生動物の生態についてのテーマ。既存や過去の生態と比較しても興味深いと思います。
- (今後につながる) 失敗事例集のようなものがあったら、聞いてみたいです。例えば、モニタリングが上手くいっていなかったものを改善したら良くなった。野生生物対策について、少し手法を変えて上手くいったなど。上手くいかず立ち消えになってしまった事例などもあると思いますが、そういった事例の共有も必要だと思います。
- 中部以北に比べると極めて小規模・限定的ではあるが、県内唯一の「ブナ帯・山地帯」である東中国山地の目指すべき生態系の青写真について。どこを保全して、どこを修復すべきか？ その為の、個体の間引きや再導入といった手法の検討など。

5) その他、ご意見ご感想

- 参加者の質疑応答が非常に参考になる。活字で拝見できてありがたい。現地開催もよいが、オンラインの利点だと思う。毎年企画いただき、ありがとうございます。
- 県としてきちんとモニタリングを実施し、その結果を報告できる体制が素晴らしいと思います。